



黒川美克 議員

### 学校教育について

**問** 本市の小中学校2学期制導入の背景と現状について。

**答** 平成10年度に学習指導要領が全面改訂され、平成14年度より学校週五日制が完全実施されました。この制度で子どもたちの学力を補償するために2学期制の導入をしました。

**問** 成果と課題について。

**答** 始業式、終業式の回数を減らし、給食時期を工夫し、増加した時間を学習に充てることができ、2学期制は効果的でした。中学生は、定期テストの回数が減りテスト範囲が長くなり、返って勉強しづらくなった。教員は、通知表は、回数は減ったが、小通知を2回出すので、負担が増えた。保護者は、3学期制と変わりなく感じていた。進学率は、2学期制導入前の平成13年度は93・7%、平成14年度は94・7%、平成23年度は96・7%、平成24年度は98・3%と上昇しています。

**問** 今後の取り組みについて。  
**答** 新学習指導要領が、小学校では平成23年度より、中学校では平成24年度から導入されました。今後、教育再生実行会議の提言、中教審の答申、文科省の施策等の動向を踏まえ、対処していきたいと考えています。

### 生涯学習教育について

**問** 市立図書館と学校図書館の連携について。

**答** 市立図書館では、学校図書館と連携して、学年やクラス単位で貸出券を発行し、授業や調べ学習に必要な図書資料の貸出しをする団体貸出を行っています。また、市立図書館と学校図書館では、貸出しシステムの連携がなされておらず、それぞれが独立したシステムとなっており、第2期の指定管理期間に向けての大きな課題と位置づけ、市立図書館と学校図書館が連携できるシステムの導入に對して前向きに捉えています。システム導入には、費用的な問題や、教育委員会や学校図書館との調整が必要になりますが、指定管理者を選定する際の判断材料の1つとして組み込んでまいりたいと考えています。

### 在宅医療連携拠点事業について



磯貝正隆 議員

**問** これは医療との連携を図りつつ、在宅生活を支えていくという厚生労働省モデル事業として、地域包括支援センターに併設して在宅医療連携拠点を設置したものであるが、実施した内容は。

**答** 定期的に行っている地域ケア会議に、医師会、歯科医師会、薬剤師会、刈谷豊田総合病院高浜分院の医療関係者の方に参加をしてもらい、在宅と医療の連携について、講義をいただいた。別に、医療連携推進会議として4回開催し、市内の診療所医師、診療所の看護師、介護関係者、行政、地域包括支援センターのそれぞれ立場の関係者が出席し、在宅医療に関する意見交換を行った。

**問** 取り組みによる成果は。

**答** 実施をとおして新たに実現できたものに4点ある。  
① 地域医療ネットワークの構

築。これは、中核医療機関の刈谷豊田総合病院と市内診療所のオンライン化を図ったことで、検査、診療の予約、診療情報の共有化など利便性の向上への環境が整った。

② 「24時間定期巡回随時対応型訪問介護・看護」による支援体制の整備。通信端末の活用により、継続した介護サービスを行う環境ができた。

③ 地域包括支援センターや介護事業者が医師会との関わりができたこと。また、認知症初期集中支援チームへの医師派遣について医師会の協力がもたらえることになった。

④ 刈谷豊田総合病院高浜分院の平成25年4月からの訪問看護ステーション開設により、在宅生活を支える体制の整備が進んだ。

**問** 今後の取り組みは。

**答** 平成25年度は、愛知県地域医療再生基金の補助メニューとして組み換えがされているので、同様に手を上げていく。

